Zoom up（ズーム・アップ） 1

災害は忘れる間もなくやってくる

【緊急巻頭レポート】

台風12号に伴う豪雨が本町を襲った

この写真は、9月16日午前中に撮影した富沢地区に向かう道路の崩壊現場の様子である。道路部分がごっそり落ちてしまい、周囲のアスファルトには何10㍍にもわたって至るところにひびが見える。自動車はおろか、人だって通行できない状況だ。唯一の生活道路が寸断された富沢地区では住民が孤立し、不便な生活を強いられている。まずはその状況を、皆さんに知って欲しい。

記録的豪雨、被害甚大「台風12号」

紀伊半島に記録的な豪雨をもたらした台風12号は、静岡県内にも多大な影響を及ぼした。静岡気象台によると、12号の接近に伴う雨は、8月31日午前9時の降り始めから5日午後5時までの総雨量で静岡市井川地区で1027㍉、川根本町で813・5㍉という記録的な豪雨となった。

12号の接近に伴う強い雨が降り続いた4日、大井川の水かさは急激に増し始めた。本町では住民の安全を確保するため、河川近くに住む549世帯1519人に避難勧告を発令。対象住民は指定された集会所や小学校に急ぎ向かった。この避難勧告は夜8時ごろには全て解除され、住民はほっとした表情で帰宅した。

今もなお孤立が続く富沢地区

崎平区富沢地区では、集落に向かうための生活道路（林道）が、豪雨の影響により路肩決壊し、通行不能となった。住民7世帯20人が孤立。自動車が通行できる迂回路はなく、住民は幅1㍍ほどの山道を7分ほど歩いて崎平区へ出る以外に方法はない。建設課では災害復旧事業による道路復旧を目指しているが、現場は急な斜面で、現在も崩落の危険があるため、年度内の復旧は困難な見通しとなっている。

同地区では孤立後、水道が止まってしまったが、住民が自ら沢から水を引き急場をしのいだという。現在は水道の仮復旧は完了している。

しかし日用品の買い出しやゴミ出しに苦慮したり、何より急病人が出た場合の対応なども心配された。車で外に出られない生活は、孤立集落にとって何より苦しいものだった。

現在、数回にわたって実施されている避難者などの支援活動は、生活用品の運び出しや高齢者の移動補助などが主。消防署、消防団などが富沢地区に出向き対応に当たっている。

16日の活動では、消防署3人、消防団本部3人、役場各課などからも数人が出動。崎平区貯水池付近に車を止め、幅1㍍ほどの山道を歩いて約7分。富沢地区入口付近に到着した。地区では住民が寝具や生活用品などを災害現場付近まで持参しており、モノレールを使って崎平区へと運び出した。山道を歩いて移動するのが困難な高齢者は、消防署職員が用意した担架に乗せ、交代しながら慎重に搬送した。

16日現在、地区外へ避難した世帯は2世帯。今後も時期を見計らいながら順次避難を進めていくという。

富沢地区の全住民が、笑顔で帰宅できる日まで、台風12号災害は終わらない。

16日に実施された支援活動の様子。デイサービスを利用するお年寄りを北分遣所の消防士や消防団本部員などが担架を使って崎平地区へと搬送した。迂回路として使っている山道は幅が1㍍くらい。狭いところで50㌢くらいしかない。急勾配な部分もあるため、担架を持っての道行きは困難を極めた。普通に歩くと6、7分で踏破できる山道だが、この日は30分近くかけて、慎重に歩みを進めた。崎平に付くとほっと一安心。ケアマネジャーと笑顔で手を取り合った。現在、生活用品の運び出しはモノレールで実施されている。

沢の氾らんを抑制、山道を整備、簡易浴場…共助の精神が生きました

崎平区富沢地区班長

桜木孝至（こうし）さん

富沢地区は迂回路のない行き止まりの集落です。以前から迂回路整備を要望してきましたが、実現にはいたりませんでした。

地区内に沢が3、4本あるんですが、今回の災害でそれが増水して土石流となり、ホタルの池やあまごの養殖場に土砂が入り込みました。

道路の崩壊は夜に起こったようです。昼間の時点で既に路面が陥没し始めていたので「通行は危険」と判断し、警察に頼んで通行止めにしてもらいました。いつ崩れてもおかしくない状態だったんですね。人の事故につながらなくて本当に良かったと思います。その日の午後から夜にかけて路肩が決壊し、富沢地区は孤立しました。

現在、住民たちは外への避難を始めています。それぞれの事情もありますから、時期を検討しながら進めています。

孤立直後から、住民が土砂の除去、簡易浴場の設置、沢から水を引くなど、協力しながらここまで過ごしました。消防や行政などの支援も受けながら、今も災害対応に当たっています。